

全国で予測されるこれからの地震

- ✕ 過去の最大震度6以上の地震
昭和50年（1975年）以降
- 想定震源域
- 発生確率が高い活断層

M：マグニチュード

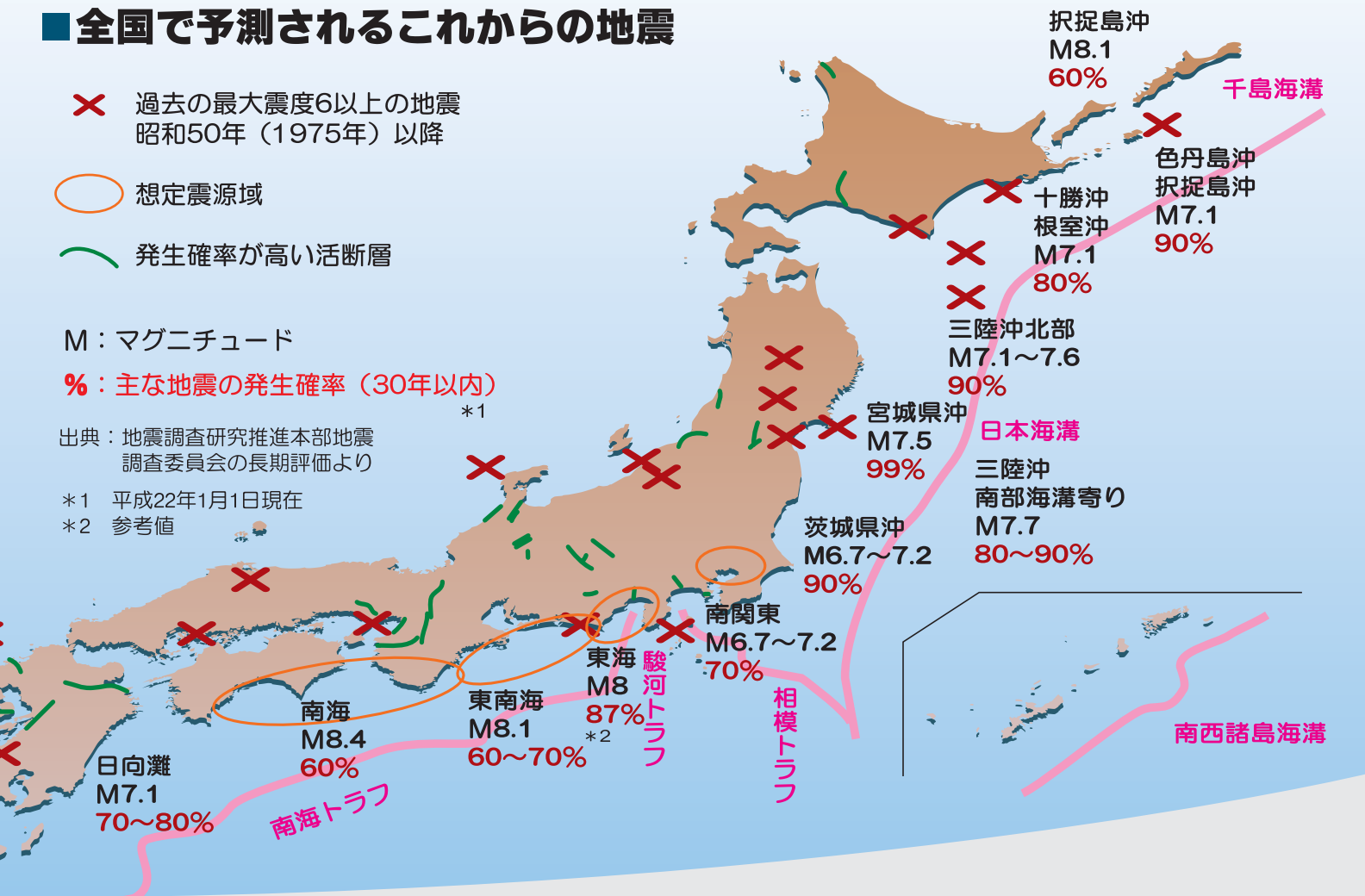
%：主な地震の発生確率（30年以内）

*1

出典：地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価より

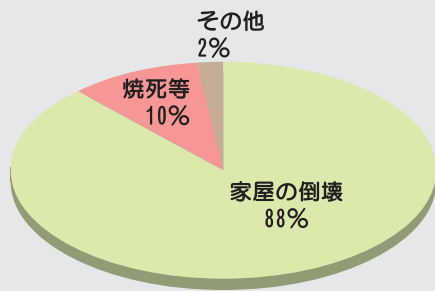
*1 平成22年1月1日現在

*2 参考値



平成7年に起きた阪神・淡路大震災では、死者のほとんどが家屋などの倒壊により圧迫されて亡くなっています。さらに、現在の耐震基準を満たしていない家屋の約70%が被害を受けていることなどを踏まえて、政府では建築物の耐震改修促進に関する法律を制定しました。これを受けて、国東市でも耐震改修促進計画を策定しています。

阪神・淡路大震災の人的被害の状況

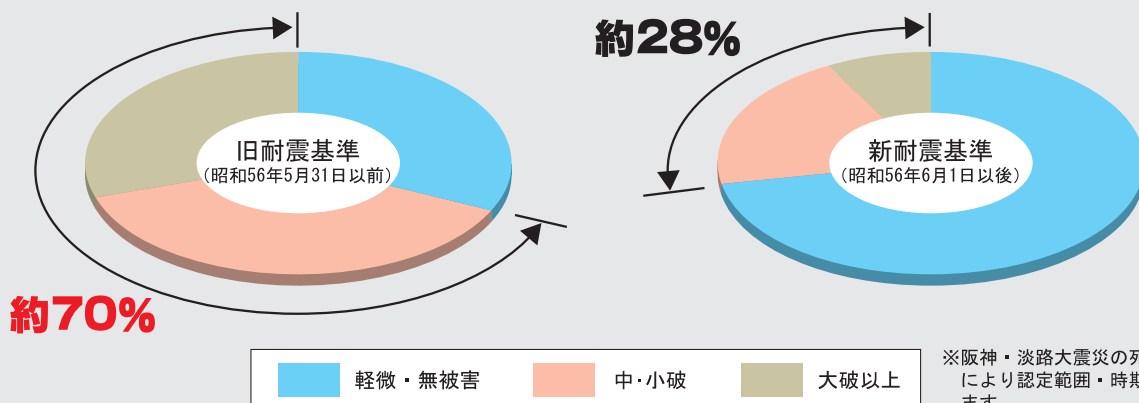


単位：人

原因	死者数
家屋、家具類等の倒壊による圧迫死と思われるもの	4,831
焼死体（火傷死体）及びその疑いがあるもの	550
その他	121
合計	5,502

平成7年度版「警察白書」より
(平成7年4月24日現在) 警察庁調べ

阪神・淡路大震災における建築物の被害



※阪神・淡路大震災の死者数については、発表機関により認定範囲・時期が異なり、数値差異があります。

例) 警察庁：5,502人（直接死のみ）
消防庁：6,434人（震災関連死を含む）